

書 評

N・J・スメルサー， S・M・リップセット(編)
『経済発展における社会構造と社会移動』

Neil J. Smelser and Seymour Martin Lipset (eds.),
Social Structure and Mobility in Economic Development,
Aldine Publishing Company, Chicago, 1966, ix+399pp.

1. 本書は経済発展における社会構造と社会移動との関係についての The Committee on Economic Growth of the Social Science Research Council の研究の成果であって、1964年の1月30、31日に行われた会議に提出の論文の集録である。

2. 13個の論文で構成されているが、内容別にみるとほぼ次の5項目に分類することができる。(1)理論的方法論的研究：発展過程と社会移動との間の研究に関する理論の検討と移動性に関する比較研究成果の批判であって、Smelser, Lipset 共同研究の *Social Structure, Mobility and Development* (pp.1—50), Duncan の *Methodological Issues in The Analysis of Social Mobility* (pp.51—97) や Wilensky の *Measures and Effects of Mobility* (pp. 98-140) がこれである。(2)は伝統的社会階層と近代的社会階層に関する研究であって、Smith と Hoselitz の論文がある。特に Hoselitz は “dualism” の概念から出発して伝統的社会階層制と近代的社会階層制度が経済変動の期間において相互に適応していく過程を検討した注目すべき論文である。(3)は経済発展の社会移動に及ぼす影響の研究である。Moore の *Changes in Occupational Structure* (pp.194-212) は発展過程における職業構造の動向を要約しており、Ramsøy 論文 *Changes in Rates and Forms of Mobility* (pp. 213—234) はノールウエーの資料を利用して経済発展の期間における各産業セクターの差別移動率を検討したもので注目される。また Sjoberg の *Rural-Urban Balance and Models of Economic Development* (pp. 235—261) は農村・都市間の地域移動の諸問題を検討し、特に、都市化に対する思想的影響の分析を行ったものである。(4)は移動性に対する非経済的影響の研究である。ここでは Bendix の日本研究が注目される。同氏の *A Case Study in Cultural and Educational Mobility: Japan and the Protestant Ethic* (pp. 262—279) は、19世紀末葉の日本を事例として経済的革新階級の発生期における文化価値—武士道倫理—の役割をあきらかにしようとしたものである。Crockett 論文 *Psychological Origins of Mobility* (pp. 280—309) は、社会移動と革新の心理的起源を考察したものであり、また Matza の *The Disreputable Poor* (pp. 310—339) は、恒久的貧困層発生における社会的メカニズムを分析したものである。(5)は社会移動の政治的側面に関する研究である。Seligman と Germani の論文があるが、特に後者の *Social and Political Consequences of Mobility* (pp. 364—394) は発展期における急速な社会移動の政治的結果を分析し、社会移動を政治的・社会的不安の重要な決定要因として特徴づけたもので注目される。

3. 研究対象は上述の如く極めて広範囲にわたっており、それぞれについてコメントを行うことはこんなんである。特に人口学にとってあるいはわれわれの研究にとって興味ある点について若干附記しておこう。第1は Ramsøy の研究であって、職業構造の変動に対応する父子2世代間の職業移動の地域区分分析、特に純移動、粗移動の関係の体系的分析とそこから交換移動 (exchange mobility) の概念を発展させた。第2は Sjoberg の低開発国や共産圏における rural-urban の実態、思想の比較研究であり、第3は O. D. Duncan の世代間移動における回帰分析やマトリックス分析等による方法論の発展に関するものである。

(黒田 俊夫)